

第 18 回教育課程編成委員会 議事録

開催時：令和 4 年 3 月 28 日（月） 13：30～14：30

場所：下関福祉専門学校 3 F

出席者：富田 陽治（一般社団法人 山口県介護福祉士会 下関ブロック長）

花貫 一博（社会福祉法人 下関市社会福祉協議会 在宅福祉課長）

河田 洋治（社会福祉法人 菊水会 参事）

関谷 豊（下関福祉専門学校 校長）

田中 満由美（下関福祉専門学校 教務部長）

藤岡 恵子（下関福祉専門学校 教務主任）

長本 幸子（下関福祉専門学校 専任教員）

盛重 美恵子（下関福祉専門学校 専任教務）（敬称略）

議事 1 今年度の教育目標評価及び課題

- 2 今年度の「福祉と文化」特別授業について
- 3 各委員からの意見要望
- 4 その他

議事 1 今年度の教育目標評価及び課題

それぞれの教育目標評価及び課題を各学年担任が報告する。

【1】 介護に必要なコミュニケーション能力を養い、生活ニーズに対応できる能力を培うことができる。

1 学年評価：コミュニケーションの基礎的知識は授業で習得できたと思われる。しかし、クラスの中では、留学生と日本人の割合がほぼ同じであり、また年齢も近かったため留学生と日本人双方共にコミュニケーションを意識的に図ることをしなかった。

2 学年評価：コロナ禍での実習となり、利用者や家族との関りが制限され情報収集が思うようにできなかった。しかし、その限られた中で3段階実習では、利用者と信頼関係を築く学生もいた。ニーズの明確さにおいては、自分の思い込みをニーズとして捉え介護過程の展開を行った学生もあり、また、能力の差で記録に活かすことが難しい学生もいた。

【2】 介護過程の意義、目的を理解し個々のニーズに沿った介護過程の展開ができる。

1 学年評価：介護過程の意義や目的は、第1段階の実習や日々の施設でのアルバイトの中で理解しているようであるが、留学生は、日本語能力が低く語彙力の少なさで、介護過程の思考過程を理解するまでに至らなかった。日本人学生は、情報の収集は理解できるがそれから先の統合化の理解が困難である。

2 学年評価：コロナ禍であるが各施設のご協力により、多職種との関りを持たせていただいたため、各専

門職の役割は理解できたと思われる。しかし、利用者の生活支援である介護福祉士の専門職としての介護過程の展開は、介助者本位の視線での展開となったため、今後の課題であると思われる。

【3】 福祉専門職としての職業倫理を理解し、介護福祉士の役割を認識することができる。

1 学年評価：福祉専門職としての職業倫理は、理解しているが、福祉専門職としての役割と職業倫理が結びつかず、実習を経験するのが精一杯なため役割が認識できていない。

2 学年評価：形が残らない、やり直しがきかない、ロボットと違い同じサービスの提供ができないという特性を理解し、個別ケアの実施を3段階実習の介護過程の展開の中で行うことができた。また、それをケーススタディという事例検討会を行ったことでより自立支援について深く理解できたと思われる。

委員からの質疑

委員：1学年の目標の中で『コミュニケーションを意識的に図ることをしなかった』とあるが、意図的にしなかったのは教員か学生側か

〔A〕：学生側であり、年齢が近い故の安心感やなれ合いがあり、コミュニケーション力の向上には至らなかった。

委員：3段階実習の内容を具体的に説明してほしい

〔A〕：実習Ⅱの3段階実習とは、27日間の実習期間の中で、介護過程の展開（アセスメント～立案～実施～評価）を行うことを目的としている。特に留学生は、この3段階の実習を行うことで日本語の理解力も向上し、格段の成長が見られた。

委員：実習後に振り返り等行うことで介護福祉士の役割や職業倫理がより理解できると思われる。

〔A〕：実習後は必ず振り返りを行っており、実習先でもご理解していただきご指導をいただいている。

議事2 今年度の「福祉と文化」特別授業について

普通救命講座 例年消防署の方に来校いただき、人形をモデルに実践しているが、コロナウイルス蔓延防止措置により、DVDを借り受け視聴での対応となった。なお医療的ケアの授業で救命救急は履修している。

委員：実際人形を使って行う救命講習は意義があり、特別授業が開催されることを願ってる。

着付け 日本人も着物を着る機会が減っており、特に留学生が浴衣の着付けに大変喜び、写真をたくさん撮っていた。

昭和の歌 唱歌や流行歌などを一部の留学生は、真剣に学んで歌えるようになっていた。

ストレスマネジメント 以前この委員会で挙げた内容で、職場でのストレスがピンとこない学生もいたが、今後も続けてゆきたい。

委員： 就職後、セルフコントロールが難しく、次の段階にどうステップアップしていけばよいのかわからずにストップしてしまう人がある。職場としてもセルフマネジメントやセルフケアを研修で取り上げているが、相談になかなか来ていただけず、リタイアしてしまう。

退職者のほとんどが「人間関係」を挙げており、施設としては介護の仕事を長く続けて欲しいと思っているが、悩んでいる人は悩みを打ち明けず、来たときには退職を決めてからが現状である。

ストレスが高い人（ストレスに弱い人）は、対処のコントロールができていない。新人研修でパワハラやセクハラの対処法を行っているが、なかなか相談に来てくれない。パワハラなど感じたら「あなたは守られている」ことを思い出してほしい。

委員： 学生は「体験すること」が大切。外部の先生のいろいろな話を聞くことで見分が広がる。

委員： 外部の人の話を聞いて刺激を受けることは大切。例えば昭和の歌は「少しは歌える」が、就職後本人の強みになる。

議事3 各委員からの要望

委員： 留学生は日本人とのコミュニケーションや仲間づくりはどうしていたか

[A]： 留学生の中にも自ら溶け込もうとする学生、固まってしまう学生、さまざまだったが、今年度の卒業生は、クラス LINE をつくり、コミュニケーションを取っている。

次回委員会開催日の日程について

令和4年8月開催予定